

## 沖縄・高江に行ってきました。

それで、南労会支部の定期大会の議案書に原稿を書きました。転載します。

### 普天間基地

沖縄戦で戦火から逃れて疎開していた、あるいは捕虜として収容所に入

れられていた住民の集落や畑に米軍が勝手に作ったものです。家も畑もすべてブルドーザーで押し潰し、整地をし、飛行場は作られました。沖縄戦が終わり戻ってくれば、基地として囲いこまれており、住民は金網の周辺に住まわざるを得なかった。「危険な普天間基地は閉鎖せよ、沖縄戦で米軍が勝手に作った普天間

飛行場は住民に返せ」というまっとうな普天間返還要求は普天間「移設」にすり替えられました。

二年前に「普天間米公文書」というものが出されていきます。それによると米軍は航空機の進入路下にある飛行場北側の区画を事故の危険性を示唆し、軍関係施設の建築を禁止していました。そして、この危険だと言うて

宅地となり、小学校も建っています。住民の安全を

抜きにした居住地区指定に基づき基地返還で米軍機墜落の危険と隣り合わせ、爆音被害を受け続けるという過酷な市街地が形成されたのです。「何もない原野に米軍が滑走路を建設し、基地収入を求めて周りに住民が住み着いた」というデマは冷酷で傲慢な米軍を頼まれもしないのに擁護し、基地周辺住民をおとしめる。あまりにも罪深い。

### SACO最終報告

米兵による女性への性犯罪は一九四五年三月二十六日沖縄戦で米軍がはじ

めて慶良間諸島に上陸したその直後より始まりです。日米地位協定で守られている米兵。捕まった犯人の処罰はほとんどの事件で不明とされています。

一九九五年九月四日、米兵三人による少女暴行事件。沖縄全土に怒りと悲しみが広がり、十月に行われた県民総決起集会には八万を超える人々が結集し、政府に対し地位協定の見直しと基地縮小を迫りました。その民意にこたえられたかたちでSACO（沖縄における施設及び区域に関する特別行動委員会）最終報告が翌年十二月にまとめられました

組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう！

た。しかし、それはいろいろな基地、老朽化して使えない施設を整理縮小し、代わりに近代的な強固な軍事施設をあらたに作るというものでした。すべて日本の税金を使ってです。

## 辺野古

二〇一三年十二月仲井真前沖縄知事は辺野古の埋め立てを承認する。二〇一四年七月一日、安倍政権が集団的自衛権の行使を認める閣議決定を行った同じ日に辺野古の新基地建設の着工が始まった。「海を立入り禁止にし、警察権力を前面に立て、基地建設に反対する市民

を力ずくで押さえ込みながら工事を進める安倍政権。しかし、人々は灼熱の太陽が照り続ける夏も、豪雨の日も、寒い冬の朝もキャンブシユフブのゲート前に立ち続け、海に出続けました。そして十一月の沖縄県知事選挙。沖縄県民は『新基地建設をあらゆる権限を行使して阻止する』という翁長雄志さんを知事を選びました。しかし、工事の進め方はいつそう強硬なものになり、日々の弾圧はいつそう激しく、ゲート前では二〇名以上が逮捕され、四〇名以上が救急搬送されました。二〇一五年十一月からは警視庁機動隊

が導入され、海では海上保安庁がカヌーを転覆させたり、カヌーメンバーを海に沈めて海水を飲ませたり、抗議船に激突して大破させたり、ついには抗議船を転覆させるなど、死者を出しかねない暴力が続いていました」(『庄殺の海 第二章 辺野古』より)。

翁長知事から埋め立ての許認可権限を奪おうと国が知事を訴えた代執行訴訟は三月四日和解になりました。それによって埋め立て工事は今は停止されています。身を挺した反対運動の成果です。しかし、九月十六日「辺野古違法確認訴訟」は県

が敗訴しました。埋め立ての承認取り消しは違法という判決がたのです。「沖縄に関して政府と国会、司法の三権は分立せず逆に一体化して新基地建設に突き進む」と言われています。辺野古は今、嵐の前の静けさであり、凶暴な国家の暴力が再び三度襲いかかってきそうです。

## 高江

国頭郡の国頭村と東村にまたがるアメリカ海兵隊の基地・北部訓練場の半分の返還には条件がつけられています。高江に新たに六ヶ所のヘリパッドを建設することです。

東村高江はヤンバルの森が広がる。絶滅危惧種で国の特別展記念物のノグチゲラ、ヤンバルクイナの生息地であり、破壊してはならない豊かな自然の宝庫です。そのおよそ一五〇人の集落を取り囲むようにヘリパッドの建設が強行されています。当初はオスプレイのオの字もなかった。「高江区は二度にわたりヘリパッド反対の決議をし、関係機関に出向き計画の見直しを要請してきました。しかし、二〇〇七年三月ついに集落から最も近いN四地区のヘリパッドが完成してしまいました。そして、条件である基地

の返還もされないまま二〇一五年一月三十日米軍への先行提供が閣議決定され、オスプレイの飛行訓練が本格的に始まりました。本国では民間地の上は飛ばないのに高江では昼夜を問わず住宅地や小中学校の上を低空飛行しています」(『Voice of Takae』— 沖縄県東村高江で起きていること— 『より』)。

そして、七月十一日参議院選挙で「オール沖縄」の伊波洋一氏が当選した翌日に政府は「年内に工事を終わらせる」という安倍の号令の下、二年ぶりの工事再開に踏み切ったのです。本土からも集

まってきた機動隊の数は千で、二〇〇七年以来守り続けてきたN1ゲートは圧倒的な機動隊の暴力で封鎖は解除されてしまいました。それでも人々はなんのためらいもなく直接行動を繰り広げます。工事車両を通さないために路肩に駐車する。レッカーで持っていけないように車の下にもぐりこむ。砂利を積んだダンプが通る道路に座り込む。基地内工事現場で木を伐採したり整地したりしているショベルカーのアームの下に座り込む。一分でも一秒でも工事を遅らせるためにできるあらゆることを体一つでやり



金網のむこうは建設中のヘリパッド。機動隊と防衛局職員が抗議をする人たちを監視している。彼らが立っている場所はヤンバルの森だった。

### 最後に

り遂げる。

「機動隊と対決しているわけではなく、社会・国家と向き合う場所」というフレーズをこの原稿を書くために眉間にしわ寄せて読んでいた沖縄の闘いを知らせるたくさん

組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう！

のピラヤちらし、印刷物の中からみつけた。

十一月二日水曜日、北部訓練所のメインゲート前。朝から県内各地からあるいは本土から二五〇名くらいの人たちが集まり座り込み、集会をする。夕方、人々が去った後に砂利を積んだトレーラー九台、ダンプ四台がゲートを越えて行く。その場に残り抗議をする人たちの前に立ちはだかる機動隊。無然とした表情でいらんでいる若い機動隊員に「あなたは沖縄の人か?なんで沖縄ばかりがこんな目にあう...?」と(ウチナンチューでもないのに言うてしもた)問えば

ほんの一瞬かすかに悲しげな(超主観)目になり、フィツと顔をそらす。砂利を降ろしたダンプカーがゲートから出てくる。それを止めようとする人を機動隊が押し返す。機動隊員の背中すれすれをダンプカーはスピードを緩めることなく走り抜けて行く。国家の意思で雇われたダンプの運転手は機動隊員のことなど忖度そんたくしない、あるいはへとも思わないようだ。

住民や反対運動をする人たちを弾圧するために差別意識をすりこまれた大阪府警の機動隊を許すことはできない。しかし、背後にいる国家や自らの

手を汚さず高見の見物を決め込んでいる米軍への怒りやもどかしさやいらだちやら諸々の感情もわいてくる。「社会・国家と向き合う場所」というのが胸にストンと落ちてくる。

「選挙、議会決議、県民大会、官庁申し入れ行動。およそ考え得るありとあらゆる手段を否定されたわれわれに残された最後の選択肢は、直接行動しかない―体を張って基地を止めるのだ。ゲートの前でスクラムを組む。ダンプカーの前に立ちはだかり進路をふさぐ。基地の敷地内へ入り、その場で工事を止める…。も

う何十年も沖縄は基地とたたかってきた。たたかわざるを得なかったのだ。最後はいつも直接行動で」

(やんてんべんら)Twitter (@yanbaru\_gurashi65)。

歴史教科書の改ざんやオスブレイの配備、駐留米軍の事件、事故、後を絶たないいたましい犯罪のたびに沖縄はこれまで幾度も十万人規模の県民大会を開いてきた。そして、選挙では二〇一四年一月名護市長選挙で現職の稲嶺進氏が辺野古移設反対を掲げて再選。九月名護市議会議員選挙で辺野古新基地建設に反対する「オール沖縄」勢力が勝利し、十一月の沖縄知

事選で翁長雄志氏が辺野古埋め立てを承認した仲井真前知事に約十万票の大差をつけて圧勝。同年十二月の衆議院選挙で翁長氏と同じ立場をとる「オール沖縄」勢力の立候補者が県内四小選挙区ですべて当選。そして、今年七月に行われた参議院選挙でこれまた「オール沖縄」の伊波洋一氏が

現職大臣に十万六千票の大差をつけて圧勝した。沖縄の民意はあまりにも鮮明。それらをすべて無視して沖縄の基地は強化されていく。そして、立ち向かう人々は一片のたぬらひもなく当然の如く直接行動に体を投げ出ししていく。どうする本土人民。

編集委員 T

## 二〇一七年旗開きスケジュール

南大阪平和人権連帯会議

日時：一月十七日(火) 十八時三〇分

場所：田中機械ホール

港合同

日時：一月二〇日(金) 十八時

場所：田中機械ホール

# 編集委員会より年末恒例のお願い

2016年も早いものでもう2週間ばかりとなりました。

この1年も、港合同各支部・分会の組合員の皆さんに様々なご支援・ご協力をいただき、毎月の定期発行を行うことができました。ありがとうございました。

毎年この時期恒例ですが、2017年の「新年の抱負・決意」の各支部・分会原稿をお願いします。文字数に制限はありません。一言二言からOKです！

■締切 2017年1月6日(金)まで

■送付先 昌一金属支部(手渡しの場合は、編集委員まで)

●メール shoichi-union@lto.eonet.ne.jp ●FAX 06(6573)4000

※※必ず原稿を提出してください。よろしくお祈いします！！

組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう！